

第 11 回 みくにひじり幼稚園・保育園 学校評価委員会 議事録

令和 4 年 6 月 24 日(金) 午後 6 時～

みくにひじり幼稚園 2F ホール

出席者

記録者 みくにひじり保育園施設長 安達

| | | | |
|--------|---------------|-------|---------------|
| 山本 宗孝 | 三国地区社会福祉協議会 | 竹垣 雅登 | 保育園卒 現幼稚園 保護者 |
| 山本 芳弘 | 三国小学校 ・教頭 | 狭川 一三 | 三国八町会 |
| 佐藤 大生 | 三国小学校 ・PTA代表 | 澤村 敏江 | 三国八町会 |
| 福井 淳也 | 西三国小学校・校長 | 安達 巡 | みくにひじり幼稚園・園長 |
| 加藤 暁子 | 西三国小学校・PTA代表 | 奥村 綾 | みくにひじり幼稚園・副園長 |
| 三枝 はな子 | 母の会 ・会長 | 今井 明美 | みくにひじり幼稚園・主任 |
| 桂田 拓哉 | おやじの会 ・会長 | 安達 香代 | みくにひじり幼稚園・主事 |
| 今村 恵 | 母の会 ・前会長 | 安達 祐一 | みくにひじり保育園・施設長 |
| 荒木 敬博 | おやじの会 ・会員 | 前田 純子 | みくにひじり保育園・主任 |
| 中村 友里恵 | 保育園卒 現幼稚園 保護者 | 丸山 朋大 | みくにひじり保育園・主事 |

1、 園長挨拶

①学校評価委員会についての考え方②評価委員メンバー構成について③情報公開了承のお願い

2、 自己紹介

3、 評価内容項目

①令和3年度 自己評価結果公表シートについて(幼稚園・保育園)

②令和3年度 保護者アンケート(幼稚園・保育園))

4、 保育の取り組みについて(幼稚園・保育園)

○保育園 避難訓練について

○幼稚園 体験から育ちに繋がる玩具

5、 意見交換 (主なご意見)

- ・ コロナ中であっても子ども達にいろいろな体験をしてもらえるように
- ・ 遊びを通してとあるが、特性で積極性の無い子への配慮は？
- ・ 避難訓練の様子を見て、コロナ中であってもとても大事である
- ・ いつ起こるか分からない災害へ対応するためには、臨機応変にしなければならない
- ・ 園の保育目標がとても良い
- ・ 自身の店が商店街にあって、園児が来てくれると可愛いし嬉しい
- ・ 保護者の不安、社会性など
- ・ 小学校までなら体験の方が重要だ
- ・ 興味を持てる体験を通して成長する
- ・ コロナを通して、非認知能力の重要性
- ・ 小学校、対話慣れない子ども達への配慮
- ・ 就学前の不安はあるだろう
- ・ 保育園、幼稚園上がりが必要ではなく、その子自身の特性
- ・ 遊びを通して社会性を身に付けてほしい
- ・ 自分の子どもが在園中に園の方針が変わった
- ・ 最初は不安だったが、今では良かったと思う

- ・就学前の不安がやはりあった
- ・小学校のルールに付いていけるか今でも不安
- ・個人を大事にしてくれている
- ・遊びを通して成長するのが大事
- ・就学前の不安は分かるが、就学すれば適応出来ると思う
- ・先生達が子ども達のことを考えて保育してくれている
- ・子どもの主体性を尊重してくれている
- ・時間があれば土曜日のおやじの会に参加したい
- ・安全面の配慮が素晴らしかった
- ・小学校のトラブルで、親として覚悟をして付いていったが
- ・一人で対応すると言った子どもを見て、幼稚園の先生の言葉を思い出した
- ・就学前の準備はして欲しい
- ・園の取り組みが素晴らしい
- ・無理に詰め込む保育ではない
- ・取り組みを見させていただきありがとうございました
- ・散歩などで園児を見ると可愛い
- ・地域の一員として、見守りたい

【アンケート結果(7通回収)】

① 自己評価結果公表シート評価結果について (幼稚園)

- ・適正である・・・7
- ・適正でない・・・0

自己評価結果公表シート評価結果について (保育園)

- ・適正である・・・7
- ・適正でない・・・0

〈ご意見〉

- ・園の教育目標を改めてみることで良かったです。
- ・保育園ではこんなに先生達が考えてみてくださっていたことに感動し、幼稚園では今まさにこの幼稚園に通えているんだと嬉しく安心に思いました。
- ・コロナ禍で感染対策を講じながら、園の教育目標を達成できるよう情報交換し合い、子ども達に対し接していることが伝わってきます。

② 保護者アンケート集計結果について (幼稚園)

- ・適正である・・・7
- ・適正でない・・・0

保護者アンケート集計結果について (保育園)

- ・適正である・・・7
- ・適正でない・・・0

- ・いろんな意見があるんだとアンケートを見て思いました。

③ 保育の取り組みについて (幼稚園)

〈ご意見〉

- ・我が家にも“ナインタイトル”“レシピ”“ウノ”などがあり、どれも子どもが年長の時(特にコロナで出かけられない時)にたくさん家で遊びました。家でも「遊ぼう！」という子どもの気持ちに対して、時間もない中困る事も多かったですが、幼稚園で覚えてくる遊びを家でも取り入れることで親子でとても楽しい時間が共有できました。
- ・おもちゃとの関わりで、積み木、パズル、カードゲーム、木工遊び、ボードゲーム等を通して子ども達が知恵を出し合い遊んでいる様子が良くわかります。このような経験を積み重ね成長していくのだと感じました。

- ・主体性を大切にすあまり子どもの気分で「やりたくない」といったことをそのまま受け止めていないかと不安を感じる保護者もいると思います。どのくらい働きかけてくれているのかという事を知りたいという気持ちもあります。
- ・とてもしっかりとした教育目標に基づいてこの時期の子ども達にとって有意義な教育を進められていると感じました。子どもたち自身が自らの意思で目標となる力を身につけようとする学齢ではないので様々な環境整備や仕掛け、働きかけが大切であると思います。日々の遊びを通じて色々な力を付けてもらえるよう今後もお取り組みいただければと思います。
- ・主体性、協調性、子どもの力で解決するという根本はぶれていない教育方針は良いと思いました。
保育の取り組みについて(保育園)
〈ご意見〉
- ・最初の頃避難訓練で泣いていたのを思い出しました。それが回数を重ねるごとに先生のいう事を聞いて動けるようになっていきました。子ども達も日々の中で災害への対応に慣れていき、もしその時がきても落ち着いて行動できるのではないかと思います。
- ・避難訓練を通し、防災頭巾や非常用持ち出し袋の大切さを教え、又、職員は的確な指示が出せるよう反省会で課題と解決策を情報交換する事で活かすことが出来ると思います。
- ・幼稚園に上がるまでにオムツも卒業させる等、明確な目標も何点か挙げられていたので、継続して取り組んでいただきたいです。
- ・新型コロナ禍も3年目となり今のところ大きな波は超えたような雰囲気であるが、社会の中での人間関係のつながりが分断されていたり、新たな関係を築きにくい状況であると思います。そのような中では、保護者の孤立感や子どものコミュニケーション不足などこれまでにない不安要素が出てきていると思います。公表シートの今後取り組むべき課題にある「保育者の育成」などでもコロナ禍を踏まえお取り組みください。
- ・衣・食・排泄 人間の根本となる欲求を一つずつクリアしその子に応じた発達に合わせて関わっていくことは大変なことだと思いますが、研修などを通して職員も学習していく方針は、良いことだと思います。

◎本日の評価委員会の内容について

- ・コロナ禍で感染に注意しながらも子ども達への対応をしないといけないのは本当に大変なことだと思いました。マスクをしたり、距離をおいて話したりなど制限がある中、子ども達のコミュニケーション能力や対人関係の発育・成長に不安がありました。だけどコロナになっても毎日どろんこになって全力で遊んでいる子ども達を見ているとそんな心配もなくなっていきました。
就学前での不安で学校への準備などが挙げられていましたが、今子ども達がやるべきことは、“全力で遊ぶこと”だと強く感じました。嫌でも学校に行けば椅子に座って勉強が始まるので、こんなにも全力で遊べるのは今しかないのではと思います。先生方がたくさん工夫してくださっている遊具やおもちゃを使って、友達と仲良く時にはケンカして泣いてと、遊びの中からたくさんの事を子ども達が学び吸収し、生きる中で大事な力を育んでいてくれるんだと改めて気づき感動しています。個人的な思いが強く出過ぎてしまいすみません。改めて保育と家庭での大事な事を考える時間をいただきありがとうございました。
 - ・昨年も参加させていただきましたが、教育目標に対し職員さんが努力し子ども達に対し、愛情を込めて接していることに対しエールを送りたいと思います。
- ・今回の内容はいつも配信してくださるおたよりや担任の先生がお迎えの際に説明してくれているので把握している事ではありましたが、改めて聞くことが出来て良かったです。学校の先生、保護者だけでなく、地域の方の意見も聞き、取り入れようとするのは、非常に良い取り組みだと思います。ぜひ今後も続けていただきたいです。
- ・本日はありがとうございました。新型コロナ禍において小学校での非認知能力育成の重要性について確認する場面がありました。感染症拡大防止の観点から、人との接触に制限がかかっていたり、マスクをしたままコミュニケーションを取るようになったり、また、デジタルデバイスを導入しなければならない状況になったりと、、、これまでと違うコミュニケーションスタイルを取らなければならないことに対し非認知能力育成への影響を心配してしまいます。また、世界情勢の変化からか社会全体の許容度や寛容性も低下しているように感じてしまいます。非認知能力の育成においては、周囲の理解や社会的なつながりの豊富さ、日々多くの人達とコミュニケーションを取る事、好きな事に没頭できたり、遊びを通して様々な体験ができるなど。このようなコロナ前は当たり前だったことが、ウイズコロナでは困難になっているように感じます。まだまだ安心できる状況ではないかもしれませんが、様々な工夫を講じて子どもの非認知能力育成にご尽力いただければと思います。よろしく願いいたします。
- ・各年齢の発達段階とそれに応じた保育や教育内容の報告があれば聞き手はもっと理解が深まったかもしれません。アンケート結果だけでなく常日頃保育者が心掛けていること、トラブル時の対応方法など具体的なことも含め発表があれば尚の事良かったのではないかと思います。